

会 議 録				
平成26年度第2回 社会教育委員の会議	日 時	平成26年5月16日(金) 午前9時30分～11時00分	場 所	小金井市第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	中村議長、原嶋副議長 樋口、石田、樹、本多、倉持、小山田、清水 各委員		
	その他 事務局	西田生涯学習部長 石原生涯学習課長、上石図書館長、前島公民館長 牛込生涯学習係長		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 協議事項				
(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について				
(2) 平成26年度視察研修について				
(3) 社会教育関係団体への補助金交付について				
(4) 地域文庫補助金交付について				
(5) その他				
2 報告事項				
(1) 文化財センター企画展について				
(2) 第19回ウォーキングフェスタ東京ツデーマーチについて				
(3) 小金井チャレンジデー2014について				
(4) その他				
(中村議長)				
今日は、宗像委員ご欠席ということだけで、9名で始めさせていただく。 それでは、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。まず、事務局のほうから配付資料のご説明をいただく。				
(石原生涯学習課長)				
では、資料を確認させていただく。1枚目が、本日の次第である。その下、協議事項1、第2次推進計画の評価に係る調査のアンケートとして、原嶋副議長におつくりいただいたものを、事務局のほうで、図書館協議会用と公民館運営審議会用に分けさせていただき、それぞれ「図書館				

協議会用アンケート」、「公民館運営審議会用アンケート」とさせていただいた。続いて、PTA 連合会宛てのものについては、中村議長のほうでご作成いただいたものを添付させていただいた。

それから、次に、協議事項3の資料として、社会教育関係団体補助金交付申請一覧、それから協議事項4の資料として、地域文庫補助金交付内訳、地域文庫補助金の参考資料として、小金井市地域文庫補助金交付要綱を添付している。

その後に続くのは、報告事項関係の資料であり、文化財センター企画展の報告、ウォーキングフェスタ東京ツデーマーチの報告、小金井チャレンジデー2014のチラシ。図書館だより第29号を配付させていただいた。

以上である。

## 1 協議事項

### (1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について

(中村議長)

ありがとうございます。それでは、まず協議事項の1番、第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査についてということで、まずは事務局のほうでおつくりいただいた図書館協議会用アンケートと公運審用アンケート、これらをちょっとお目通しいただいて、皆様のご意見、今お渡ししてすぐという問題はあるけれども、ざっと目を通していただいて、ご意見等があればお願いできればと思う。

石原課長、これはどうなのだろう、今日、もう結論を出さないといけないのか、それとももうちょっと……。

(石原生涯学習課長)

図書館協議会と公民館運営審議会用は、なるべくもう今回あたりで方向性を決めて、あとはそれぞれの審議会、協議会に発送するだけみたいにさせていただけるとスムーズかなと思っている。

(中村議長)

では、もう今日この場で決めるような感じで。

(石原生涯学習課長)

ほぼ固めていただけると助かる。

(中村議長)

では、何分かお目通しいただきたい。

(アンケート用資料の確認)

(中村議長)

大体よろしいか。では、私のほうから2点ほど。

まず、図書館協議会用アンケートと公運審用アンケート共通してなのだが、例えば、図書館協議会用アンケートの1ページ目の「第1節 子どもの健全育成と家庭教育への支援」の上のどこ

ろに、「第4章 施策の展開」と入れていただいたほうがいいと思うのだが。

この1節というのは、第4章の中の1節ということか。これは大項目で言うと、「第4章施策の展開」の中で1節、2節というふうになろうから、これを入れていただいたほうがいいと思う。お願いします。

それからあと、同じく、図書館協議会用の第1節、2、(5)のところで、「読み聞かせ活動」云々とあって、そこから下3行目、「図書館事業内容等読み聞かせ」とあるが、ここに「ブックスタート」というのを入れていただければと思う。ブックスタートも図書館の事業の中に入っていると思うので、入れていただきたらと思う。

(上石図書館長)

現行だと、ブックスタートは健康課になっている。図書館で支援はしているけれども。

(中村議長)

主管ではないということか。

(上石図書館長)

このときの段階ではそうである。

(中村議長)

ただ、主管であるなしにかかわらず、図書館がかんでいるということであれば、これは入れてもいいのではないかと思ったのだが、それはだめなのか。

(石原生涯学習課長)

それは多分、このアンケートをとるときの説明の中でしたほうがわかりやすいのではないかと思う。ここに書き込まれてしまうと、どこに書いてあるんだと始まってしまうので。

(中村議長)

ああ、そういう意味か。わかった。

(石原生涯学習課長)

むしろ、これは図書館長が協議会に渡すときに説明していただいたほうがわかりやすいだろうと。

(中村議長)

なるほど、わかった。私のほうからはこの2点けれども、皆さんのほうからはあるか。

それからもう1点、図書館協議会用アンケートの2枚目の下のところが、「第4節第4節」と2つ重なっているなので、これは削除していただければと思う。

皆さん、ご意見ないようなら、もう基本、この線でアンケートをとって……。清水委員、お願いします。

(清水委員)

清水である。これは、いわゆるアンケートに対する表書きというか、どういう趣旨でこういうアンケートをとるとか、そういう……。

(中村議長)

それは、前回の会議のときに配られている。

(清水委員)

それをつけて、具体的にはこれらと分けてあると。

(中村議長)

はい。どれかがあったので、それにプラスこれという。前回の資料で1枚配られている。

(清水委員)

はい、わかった。実は、評価という言葉は、答える方によって結構違ってくるかなというあたりが。こちらは、アンケートをとる側は、何を期待しているかというあたりが伝わるかどうかがちよっと気になって、評価というのはいろいろ取りようがあるかなという気がしていたものだから、それだけ気になった。

(西田生涯学習部長)

その辺の懸念に関しては、これから議長とも打ち合わせ等が必要かもしれないけれども、いずれにしても、アンケートを渡すのは社会教育委員の会議ではあるが、当然、中に図書館長と公民館長も介在するので、その2人によく趣旨をわかっているもらえば、アンケートをとるときに、その説明をしてお渡しすればいいわけだから。ぽんと渡すだけではなくて、趣旨と、このような内容のことを期待しているので、書いてあるけれども、あくまでも第3次につなげるための評価であるということ。

そして、これは図書館協議会としてまとめて出させていただくことを想定しているわけである、各個人の意見ということではなくて。当然そこでも図書館長、公民館長が間に入って調整をすることになるので、その辺は最小限に抑えられるのではないかと。

(清水委員)

そうすると、全体にぽっと投げて集めるだけじゃないという。

(西田生涯学習部長)

ええ、そのままぽっと投げるだけではないということ。中で作業があると思う。

(中村議長)

清水委員、今のご説明でよろしいか。要は、お渡しいただく前に、細かに事情説明して、趣旨説明してお渡しするという。

(清水委員)

はい。図書館、公民館は、そういう意味では非常にわかりやすいけれども、PTA联合会とか、そういう資料……、それとはまた別？

(中村議長)

これは次、ちょっと私の意図があるので。

(清水委員)

そうか、わかった。結構だ。

(中村議長)

それで今は、公運審と図書館協議会についての議論を。

ほかはご意見ないか。はい、お願いします。

(樹委員)

樹である。内容としては、わかりやすくなっていると思うけれども、前文のところに「下記の4つ柱を基に貴団体の評価をお願いいたします」と。この「貴団体」というのは、それぞれ私たちが、例えば私だったら、P～ステップという団体に所属しているわけだが、その団体として評価をするのか、それとも今のお話を聞いていると、図書館協議会として、公運審として、これに対して評価をするのか。

(石原生涯学習課長)

それは、文書をつくったほうとしては、例えば1枚目であれば、貴団体というのは、図書館協議会という団体ということの意味することで貴団体と使っているので、受け手がわかりづらいようであれば、図書館長とか公民館長のほうで渡すときに、これは各選抜されている委員の方の団体ではなく、協議会、審議会としての団体のことだということも補足でおっしゃっていただこうと思う。

補足だが、もちろん選出されている団体の意見も入れたものをその中で揉んでいただくのは全く問題ないわけだから、基本的にこの手のアンケートというものは、意見を封殺したり、排除したりするという目的で行うものではないので、出てきた意見は、趣旨に全然そぐわないような意見というのは書き方を注意しなければいけないのかもしれないが、基本的には、そういうものも含めてまとめていくという形になろうかと思うので、包括されると言えば包括されるというような形にはなろうかと思う。

(中村議長)

よろしいか。

(樹委員)

わかった。

(中村議長)

はい、お願いします。

(倉持委員)

倉持である。話が前回に戻るようで申しわけないが、このアンケートは何を評価するのかということだが、「下記の4つの柱を基に貴団体の評価をお願いいたします」と書いてあるが、これだと図書館協議会の評価、つまり図書館協議会が、下記4つの基本の柱ごとに自分自身を評価するというふうには受け取れるのだけれども、「貴団体の評価」の「の」というのは、日本語の「の」というのはとても難しい表現なのではないかと思うが、もう少し具体的に、例えば、「貴団体の評価をお願いいたします」の後に、「こういうことを書いてください」とか「こういうことを記述してください」、何というか、これはすごく受けとめ方が……、もちろん図書館長や公民館長がいらっしゃるのでという話で、運用上は何とかなるのかもしれないけれども、ちょっと趣旨が、「貴団体

の評価」、つまり自分たちがこの基本計画にどれだけ貢献できたかということの評価していただきたいみたいに聞こえなくもない表現、そういうことを聞きたいわけではないはずだが。

(中村議長)

そうですね。

(倉持委員)

この計画そのものがどれぐらい広まり、あるいは進み、あるいは十分か、あるいは足りないかみたいなことを聞こうとしているわけなのだろう。図書館協議会が、例えばうまくいっている、うまくいっていないということを聞こうとしているわけではないと思うので。

(中村議長)

では、ここに「貴団体の第2次生涯学習推進計画に対する」という文言を入れるだけではだめか。

(倉持委員)

それで大分違うかもしれない。

(中村議長)

それを入れたらわかりやすいのではないか。

(倉持委員)

そうですね。

(中村議長)

その文言を挿入していただいてよいか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(倉持委員)

あと、全体的に、例えば章とか節とかという表現をこのまま生かして使うのであれば、やはり冊子があってだということだと思うので、目次はあまり役に立たないのかな、何か全体像が見えるものがあると、例えば「該当なし」みたいに書いてあるところが、どういうふうに該当がないのかというのはちょっとわかりづらいような気がするので、例えば16ページの施策の概要図みたいなものを参考として、全体像が見えるものを足すと、大きな柱の中のこのあたりがここに抜き出されているのだなというのがわかるということが。ちょっと資料の量が増えてしまうので、いいかどうかは考慮が必要だと思うけれども、16ページのこの表だけでも抜き出すと、バランスがわかるかなと思うところがある。

あと、(5)読み聞かせ活動の推進ごとには具体的な文言が書かれているけれども、例えば基本目標は、目標のスローガンだけが抜き出されているが、むしろこの基本目標のところにも一応、文書みたいなものが、説明文みたいなものが少し、このあらかず中身みたいなものがあると思うが、14ページのところにそれが少し書かれているのではないかと思うが、そのぐらいは少し入れておくとかすると想像しやすく、答えやすいかなと。スローガンはなかなか評価しづらいと思

うので。

(中村議長)

なるほど。ということは、倉持委員のお考えでは、「現行計画の基本目標」の1、2、3、4の大項目の下に、それぞれこの説明を入れるという。

(倉持委員)

はい。それがここで最初に入っていると、後半、すごくわかりやすいかなと思った。

(中村議長)

理解を助けるということだね。

(倉持委員)

はい、そうです。

(中村議長)

では、皆さん、ここにある説明の項目を入れていただくという方向でよろしいか。

(「はい」の声あり)

(中村議長)

では、事務局のほうでここを追加して、挿入していただければ。はい、本多委員。

(本多委員)

はい。この1節とか何章とかという決まりは、冊子を見た人にはわかるが、アンケートの文章だけを見たときには、節というのが急にできて、第1節、第2節、この上の目標のところでは(1)、(2)、(3)となっている。説明文も入れながらでは……。

(中村議長)

それで、今のご発言に関連して、私が小中学校PTA連合会のほうを書いているのだが、この①、②、③、④、⑤のところ「P23」とか書いている。ここは、この冊子のうちの何ページかということを理解しやすいようにということで書いているので、ページを何ページから該当するかというところにつけ加えてもいいのではないかと思う。理解を助けるということで。

(西田生涯学習部長)

実は、第2次生涯学習推進計画は、2年間延伸をするということで、このたび、議会に対して説明用の文書を配らせていただいた。実はそれがわかりやすいのかなと思っていて、ちょっと回して……、コピーを皆さんの分をとっていないので申し訳ない。

こういうふうになっていて、こういうふうには第1節から第4節があつて、全ての項目が全部書いてあるのだ。

(中村議長)

これは前、会議で配っていただいているやつだね。

(西田生涯学習部長)

はい、配っていた。だから、これを一緒につけたほうがわかりやすいのかなと。

(倉持委員)

そうですね。

(中村議長)

その後に。

(西田生涯学習部長)

ええ。そうすると、(1)が何だとかそういうのがはっきり、この大部な資料を見なくても、こっちを見れば大体何を指しているかがわかるので。そして、細かく見るときには、そっちの冊子を見ていただきたいという。

(中村議長)

前、会議資料で皆さんにお配りしている、この斜め上とかいう矢印がついたやつだね。

(本多委員)

これですね。

(中村議長)

表5の資料。それはコピーしてアンケートと一緒に配付いただけるということでよろしいか。

(石原生涯学習課長)

両面コピーにして。

(上石図書館長)

図書館協議会はこれからだが、公運審のほうはもう配られている。

(石原生涯学習課長)

こっちは準備をしているのですね。

(上石図書館長)

ええ。

(石田委員)

3月16日にもらっている分ですか。

(石原生涯学習課長)

そのころだと思う。公運審では配付済みで、図書館協議会は、次回の協議会で配付するようにもう準備が進められているということなので。

(中村議長)

では、アンケートとともに、今の横長の資料を添付してお渡しいただくと。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

ということは、これはもう渡さないということか。だから、前の会議のときに、貸与という…

(石原生涯学習課長)

新任の委員さんとかでお持ちでない方にはお配りする程度でよろしいのかなと思うが。

(本多委員)

それは閲覧できるのか。

(中村議長)

そうですね、閲覧はできる。

(本多委員)

必要なところをダウンロードできれば。

(中村議長)

ダウンロードはできる。

(石田委員)

できるということで。こういうのを知らなかった。

(中村議長)

あと、事務局にお尋ねしたいのだが、このアンケートと今の資料の渡し方だが、それはどういふふうなイメージで考えておられるのか。

(石原生涯学習課長)

この前のかみ文とこのアンケートをつけて、それとワンセットという形でこれをつけて、それでちょっと説明をして委員会に渡していただく。

(中村議長)

直接。

(石原生涯学習課長)

はい。図書館協議会でも次回、アンケートと一緒にできるかどうかわからないが……、次回はいつか？

(上石図書館長)

来週である。

(石原生涯学習課長)

来週、図書館協議会があるので、そこでお配りをする事になるかと思う。公運審については、既に配ってしまっているので、それは公民館長のほうから、以前お配りした資料があるのということを一言つけ加えていただいて、それでアンケートを配っていただければ、ああ、一緒に見ればいいんだという感覚になるかと思う。

(中村議長)

わかった。ちょっと戻るが、このアンケートの内容について、ほかに各委員のほうからご意見はあるか。よろしいか。

特にご意見ないようなら、先ほどいろいろ皆様から出た内容をもう一度文書に落とし込んでいただいて作成いただく。そのでき上がったものはどうするのか、最終の原稿は。

(石原生涯学習課長)

一応、皆様にデータで最終確認というので送って、もう図書館協議会の開催日が近いようなので、送ったものと同じものを図書館協議会のほうには送らせていただこうかと思う。

(中村議長)

では、データを送っていただいて、もしもご意見があればすぐに返信していただいてということで。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

はい。ということでよろしいか。

(前島公民館長)

公民館長だが、よろしいか。実は、私のほう、よくわかっていないところがあって申しわけないのだが、この評価について、例えばどういった形で公民館運営審議会のほうからお出しするのか。例えば項目とか、ただ単なるアンケート的なものなのか、それともこの事業について1つずつどういった観点から見ていくとか、そういったもののイメージというのはあるのか。

また、多分このままご説明さしあげても、どう評価するのかというお話になってきてしまうような気がするので、評価の基準ではないのだけれども、どういう観点から評価していただきたいのか、結果的にどういったものを出していただきたいということで説明さしあげないと、多分、具体的なものができ上がらないのではないかなというふうな印象がちょっとあった。また、公運審と図書館協議会と、ばらばらの形で出ていってしまうのもいかなものかと思うので、そういった、何というか、ひな型ではないのだが、そういったイメージ的なものを、ちょっと教えていただけるとありがたいと思うのだが。

(中村議長)

それについては、まず、行政のほうで評価していただいているところは、先ほど横の資料があったね、矢印とか。資料によると、大体、定性的なところもあるのだが、定量的な評価、数字に出ているような評価があったと思うのだが、まず、各協議会におかれては、数字的なものというよりも定性的な評価ということである。だから、数字にあらわれないようなところでの評価をお願いしたいということが、まず1点だと思う。

それから、あと大事な点は、各協議会、審議会の日ごろの活動に照らした中での定性的評価というところだと思う。日ごろの活動の中で、小金井生涯学習推進計画を見て、どう評価するかというところだと思う。それが2点目。

あと、私、この前の会議の議事録の要約は拝見したのだけれども、そのときには、個別の事業を1つ1つ上げていくとかなり膨大な量になるので、大きな項目で考えていただくと。

例えばここでいうと、公運審のところだと、第1節の1、子育て家庭への支援というところで、どういうふうに会として考えられるかという、どちらかというと細かな視点も大事なのだろうけれども、大まかな、大きな章立てのところ、日ごろの各審議会の活動に照らした中でどう評価

するかという、そういう視点でいいのではないかなと思うのだけれども、いかがか。

もちろん、その中には細かな子ども体験講座があったりとかいうのはあるけれども、それも含めて書いていただくということで、考え方としては大きなくくりだ。子育て家庭への支援について、公運審としてどういうふうに生涯学習推進計画を評価するかという、そういう視点でいいんじゃないかなと思うのだけれども、いかがだろうか。

(前島公民館長)

そうすると、この各項目あるが、こちらについて、例えば公運審なら公運審のほうでどのような改善が必要だとか、こういったことが考えられるのではないかとか、そういったことを言葉で、それに合わせた形でさせていただくという形になるのだろうか。

(中村議長)

そうですね。それでいいのではないかなと思う。個別の事業というより、むしろ考え方において、子育て家庭への支援について、どういうふうに、まあ、自由回答ではないけれども、日ごろ思うところ、日ごろの活動の中で、この計画に対して思うところがあれば書いていただくようなイメージでどうだろうか。

(前島公民館長)

わかった。そうすると、評価といってもこの計画に対する意見とか、今後、新たなものを作成するに当たっての課題点とか、そういったものを言葉で……。

(中村議長)

そうですね。

(前島公民館長)

出していただければいいと。

(中村議長)

だから、これまでも議論されているが、第2次の計画を評価しつつ第3次をつくる準備をするという視点ですね。そこを忘れずにアンケートに反映していただくように、答えていただくように、ちょっとご説明いただければという指示だと思う。

(前島公民館長)

わかった。

(中村議長)

それも定性的な評価ですね。数字に出てこないようなところでのお考えということ。

(前島公民館長)

はい。

(中村議長)

なおかつ、日ごろの活動に照らした中でという形。

(清水委員)

よろしいか。

(中村議長)

はい。

(清水委員)

今のお聞きしていると、ちょっと、私、途中であれ？という感じになってしまったのだが、原嶋副議長のつくられている内容と、実はPTA連合会ということで議長がつくられたのと、ちょっとそういうスタンスが違って、副議長のほうはわりと細かい、下の詳細な部分から積み上げて上に行くための材料を集めるという感覚。ところが、議長のほうは、どちらかというとき大きなところで、細かい論理より大きい枠組み的な、あるいは方向性みたいなものをどう捉えているかを皆さんで意見を集めようと。ちょっと視点が違うかなと。それでいいのかと。後で結果をすり合わせる時に、それぞれから出てくる意見をうまく重ねることができるのかどうか、ちょっとそこは気になった。それはどうなのか。

(中村議長)

そうですね。それはちょっと、私、後でご説明させていただく。

(清水委員)

わかった。

(石田委員)

やはり公民館のこれもページを書き込んでいただくと、今、探していてわかりにくいのだが、ページが書き込んであると、とてもよくわかる。それで、2枚目の外国籍市民との交流が(3)になっているが、これ、本でいくと(4)である。済まない、それだけである。

(倉持委員)

公民館のほう、ちょっと多いね。項目、該当資料が多いのでどうしても枚数が多くなってしまって、括弧ごとに答えなくてはいけないような、ちょっと煩雑になってしまう、全体像を捉え切れないかもしれないので、白い間をがっとうけてくださっているところを、少なくとも括弧のところは詰めていって、もうちょっと大枠の枠組みだけ見えるように。例えば、2節なんかはすごくいっぱいある。項目で言うと「自主的な」という1と、「障害のある」という2と、「学習活動を通じた交流」という3と、せめてこれごとぐらいに白いところがあるぐらいがいいかなと、私としては、もうその下のレベルのことずつで答えるとなると、ちょっと時間がかかるというか、それこそ次行のほうに目が行ってしまっという感じになりかねないかなと思う。ページもちょっと省略できるかなと。

(中村議長)

今、お2方、石田委員と倉持委員のお話だけれども、事務局のほうでは章ごと、例えば公運審の1枚目の第1節の1、子育て家庭への支援というところの横ぐらいに、何ページという、そんな感じだろうか。入れていただいてもいいか、同じような形で。そのほうがアンケートを答える側も答えやすいと思う。ここを見ながらやるということだから。その節のすぐ下の数字のところ、子育て家庭への支援とか、第2節、1、自主的な学習活動への支援、そのすぐ横に、これでいう

何ページというのを、それぞれ加えていただいてもいいか。

(石原生涯学習課)

はい。

(中村議長)

それでまたメール配信していただくような形。

それから、あと、今、倉持委員のほうからお話があったけれども、第1節の1の括弧の数字のところ、(5)の子ども体験の、この個別のところまではいいということだろうか。

例えば、倉持委員、これは第1節の1、子育て家庭への支援、ここぐらいまでということか、それとももう少し下の2行も入れるような。

(倉持委員)

文字はこのままでいいと思うのだけれども、余白をちょっと削るという……。

(中村議長)

あ、余白。

(倉持委員)

細かいことで済まない。

(中村議長)

ああ、なるほど。そういうこと。

(西田生涯学習部長)

例えば、2ページの3の(1)、(2)、(4)、(5)というのは、詰めてしまえという意味だろうか。

(中村議長)

そうですね。余白を。

(西田生涯学習部長)

3の学習活動を通じた交流の促進について基本的には聞いているのだと。その中にはこんなものがあるので、その中でいろいろつまんで、いろいろ評価してくれという意味合いだろうね。

(倉持委員)

そう。

(西田生涯学習部長)

わかった。

(中村議長)

では、それを反映させていただいてよろしいか。

ほか、ご意見ないか。特にないようなら、今ご意見を承った項目について文言を訂正させていただいて、各委員に配付していただくということでお願いします。

続いて、私がちょっと資料をつけさせていただいた、これ、あくまでもサンプル、たたき台だが、小中学校PTA連合会御中ということで書かせていただいた件である。

先ほど清水委員のほうからご指摘があったように、私はかなり雑駁なあれで、大まかな項目でというふうに考えて、これはあくまでもほかのものと共通という意味で、サンプルとしてPTA連合会ということで書かせていただいた。

質問事項については、「第2次小金井市生涯学習推進計画を貴会の日頃の活動に照らした中で、定性的評価（具体的な施策の内容についての評価を自由にご記入下さい）」ということで、①から⑤までである。これが具体的に冊子の中のページ数を上げた中で書いている。

例えば23ページの、施策の体系の中の施策の方向についてのことを、それぞれ抜き出して書いているわけである。具体的な施策の内容にまでは踏み込んで記入していないということで、かなり大まかな聞き方にはなっている。

先ほど清水委員のほうからご指摘があったのは、公運審、図書館協議会はもっと細かく、原嶋副議長のほうで作成していただいた文とちょっと違うのではないかと、統一したほうがいいのではないかというご意見か。

(清水委員)

そうである。後でアンケートを集約するときに、ちょっと違ったレベルというか、それで出てくると、それをどうすり合わせるかというのが難しくなるのかなという気はした。

(本多委員)

3ページのところにある、今後の課題ということで、1、2、3、4、5の、問いかけている形が書いてあるので、この問いかけの間1では。

(中村議長)

これ、この3ページ？

(本多委員)

3ページ、はい。これは、今後の課題ということで問いかけている形になっている。要は、充実していたかとか、今後どう考えるかとかいう問いかけの、基本の形で丁度よい。案が浮かばなかったのを見ていたら、その問いかけが……、どうであろうか、共通するアンケートにならないだろうか。

(原嶋副議長)

いいだろうか。先のことを言っただけだけれども、何というか、これが1つのものになって、各、場合によっては、社会教育関係団体のほうに、もとになっていけば、同じような形で広がっていくのだと思うので、結論を言うと、これはやっぱり小委員会か何かでやっていかないと難しい。先ほど出したので、当然これはここを視点として置かなくてはいけないのだけれども、図書館とか公民館というのは、ある程度枠組みで、ちょっと目が行き届く場所の中でお話し合いができるのだけれども、配付先とか、不特定多数に今度は入っていくと、やはり慎重にやっていかなくてはいけないのかなと。

だから、私なんかはPTAに絡んでいたときに、どれを配ったらいいのか。ちょっと4月、5月でPTAをやられた方がいる、こういうのはもちろんご存じない。だから、どこまでが枠組み

なのか、どこまでと、これは例えば体育協会もそうだ。理事になった方もいらっしゃるし、例えばじゃんけんぽんでPTAになってしまったとか、そういった事例もあり得るのである。そうすると、課題意識というのは、これからになっていくのだと思うので、やはりこれは今日いただいたものについて、小委員会あたりでもう少しやっていかないと、これがやはり敷衍していくわけだから。各社会教育団体に。そういった意味では、皆さんにこれを土台として、ご意見をいただいて、調整していく必要があるのかなとは考える。

(中村議長)

よろしいか。私がちょっとこれを作成していて、今日、皆さんに配付させていただいたのは、あくまでもたたき台ということで、例えばPTA連合会に対しては、こういう質問の内容で、もちろん各社会教育団体については、当然質問の内容が変わってくると思うのだが、大きな考え方として、こういう考え方でいかがかという内容だけである。

それに当たっては、ちょっとくどいようなのだけれども、「貴会の日頃の活動に照らした中での定性的評価」ということと、あと、この冊子の中でどこが該当するかというのを、わかりやすいようにちょっと書いたつもりである。あと、それから注意すべきが「評価やお気づきの点」や、あるいは最後に書いているけれども、「第3次小金井市生涯学習推進計画の策定につき留意すべきポイントやご意見があれば自由にご記入いただければ幸いです」、この辺は共通するところだと。

(原嶋副議長)

清水委員が前回おっしゃった、各立場、目線、学習上と言ったかもしれないね。受け取ったときに、どう対応……、だから、先ほど言った、くどいが、じゃんけんぽんで負けてしまったからやるとかという、意識がまた違うかもしれない。PTA頑張るんだという人もいらっしゃるかもしれない。だから、その辺のところもひっくるめて、それと、文章もやはりとっつきやすい文章のほうがいいのかなど。定性とか定量とかという、文章でうーんと、最初に読んだときに距離感が生まれてしまうこともある。そういったところも含めて、もう少し、これを土台にせっかくつくっていただいたんだから、これを土台にして、少し練っていったほうがいいのかなど……。

(西田生涯学習部長)

公運審と図書館協議会については、図書館長も公民館長も今日の議論を聞いているし、今の話で、もうすぐ出せる形にはなると思う。問題は、そのほかの団体というのをどこまで出すのか。多分、ほかの団体に聞くときには、おそらく図書館協議会と公運審と同じレベルでお聞きするというのは難しいのではないかなと思う。要するに、もっと端的に言ってしまうと、誤解を招くといけないのだが、公運審や図書館協議会で出てくるレベルのものが、そのほかのところからいただけるかということになると、やはり集まっている回数とか、専門家がいる、いないとかというような形を考えたとしても、なかなか、ちょっと聞くことをうまく考えないと、図書館協議会と公運審で出てくるアンケートのレベルと同一のものが出てくるというのは、これから2年ぐらいかけてやるというのだったら、いろいろこちらからご説明に行って、いや、こういうことではなくて、とかやりとりができるのかもしれないのだが、それが期待できない以上は、今、原嶋副議

長もおっしゃったのだけれども、ある程度わかりやすくやって、どこにも同じような聞き方をわかりやすくするというほうが、実際には、最終的には使いやすいアンケートになるのではないかという気がする。図書館と公民館というのは実際に事業を行っているところで、大きなところ、かなりの部分を、比率を占めているので、そういう切り分けもちょっと必要なのかなと、個人的な考え方なので、ぜひ皆さんの、委員の中でいろいろご議論をいただきたいのだけど、そういう切り口もあるかなとちょっと思ったところが、申しわけない、ちょっと個人的な話なのだけれども。

(中村議長)

今、部長がおっしゃった線で私はよろしいと思う。それで、なおかつ原嶋副議長もおっしゃったけれども、例えばPTAの各委員においても、じゃんけんぽんではないが、意識の差があったりとかというところがあるので、やはりその辺は丁寧に、公運審とか図書館協議会とは違ってちょっと丁寧な形のアンケートの問いかけでも、私はいいのではないかなとは思う。

あと、先ほど本多委員のご指摘があった、ここらあたりも加味していくのもよろしいのではないかなと。これは非常に、この3ページの項目、今ご指摘いただいたところ、なるほどと今思った。このあたりもちょっと含めて、アンケートに落とし込むような形がいいかもしれないと。

(清水委員)

ちょっといいか。

(中村議長)

お願いします。

(清水委員)

今の議論を聞いていて、確かに、いわゆる生涯学習的なものについて、サービスを提供する側、要は運営主体側と、それを利用する側と、やはりこれは全然違うと思う。運営する側は、具体的にやっている施策についての視点でぐーっと見れる。ところが、利用する側は、とにかく自分としてはこういうものがあればいいとって選ぶわけだから、どういう施策があるとか何とかよりは、自分の希望に合致したところがあるかという、場合によってはないよねということなのだろうという気がして、確かにその視点は、出てくる内容はかなり違うと。だから、もうそこはしっかり分けて、運営側の意見と、それから提供している側から見た利用状況だと思う。そういう観点での評価、これは確かに分けたほうがよさそうだね、結果を集計するなら。そんな気がした。

(西田生涯学習部長)

PTA連合会のほうも受け手というだけでなく、提供していることもたくさんあるので、実際、ここで中村議長のほうに書いていただいた①、②、③、④、⑤というところは、実際にPTAが主体となってやらないといけないというか、やっている部分もあるわけである。だから、利用している一辺倒というわけではないわけである。提供側としての立場もあるので、その辺が、ただ仕事としてやっているところと、そうでないところというような差みたいな、ボランティア的なところのかかわり方というか、そういったものの差はあるかと思う。

ただ、やはり公民館、図書館と比べてしまうと、いわゆる市の職員がきちんとして、ボランティアではなくて仕事としてやっているような、その提供の仕方というのと、PTAがボランティアを中心にやっている仕事の提供の仕方というのは、おのずから違ってきてしまう。当然聞き方も違ってきてしまうだろうと。そういうところはあるので、それで、私がちょっと、先ほど私見だがということで申し上げたのが、やっぱり図書館、公民館との聞き方とはちょっと変えてやったほうが、アンケートの回答も得やすいのかなという気はしたということである。

だから、もうちょっと端的に言うと、PTAとかにはある程度、第2次小金井市生涯学習推進計画とは何ぞやというようなところからきちんと解説したようなものもつけてお渡ししないと、やはりわけがわからないというところから入っていつてしまう可能性があるのも、それはちょっと事務局側で簡単なものを用意するというような形にはなろうかと思う。

(樋口委員)

先ほどからPTAのことを言われているのだが、私もちょうど中村議長が挙げてくださった青少年の健全育成とか、学校教育の連携のところを質問形式で、一応、考えてはきたのだが、その折に、やはり例えば具体的に、では青少年の健全育成の、23ページ、24ページをちょっと見ていただいた折に、24ページの1、あると思うのだが、そのときに、例えば下の説明文がある、児童館を通した仲間づくり、親子のコミュニケーションを図るなど、より地域に密着した児童館となっていると思うか、また、なっていないと思うならどういうところかとか、そういう直接的な聞き方だと、まあ、PTAだと答えやすいのかなということで、ここにずっとある項目について、とりあえず直接的な聞き方に直してはきたのだが、そういうものでないとなかなか答えにくいのと、あとは、PTAもどの範囲に広げて質問するかによるのだが、各学校を代表として、会長、副会長さんとか、常務理事会とか、理事会、月に各学校の代表のP連関係の担当者から会長とかが集まってやっているのだが、そういったメンバーぐらいに落として聞くのがいいのかなと感じている。

(中村議長)

樋口委員、具体的に何かおつくりになったことがあるということか。

(樋口委員)

いえ。つくるというか、ほぼ、この項目に従って、その項目の文章をもうちょっと短くして、さきの質問形式ぐらいにしてきただけで、ただ、それにすると全項目ちょっと長いのである。そういうふうに具体的にわかりやすい項目にすると、質問の量が長かったりする部分があったり、かといって抽象的に問うと答えにくい部分があるなという部分に関して、この辺はどうしたらいいのかなというところはある。

(中村議長)

この話に限って言うと僕も同じである。配付先の範囲は、会長、副会長、書記さんとか、専門委員さんぐらいのレベルだよな、各会議の。それと、先ほども言ったように、受け手としてはアンケートしやすいような状況のものをつくる。でも、それをおつくりになったの、もったいない

から。

(樋口委員)

ほぼここに書いてある文章を質問形式で、それが充実できているかとか、十分行われていると思うか、もしくは行われていないなら、どういうところかという形に直してきてただけなのだが、ただ、そういうふうに具体性があると答えやすいが、実際はぱっとこれが出てきて、それに回答するには、このぐらいすごく直接的な質問でないと、なかなか答えづらいというのがほんとうかなと思う。

(小山田委員)

私は今までのお話を伺っていて、公民館と図書館のほうはこのままでよいかとは思っただけけれども、P連だとか、その他の皆さん所属されている団体とかに問うという場合は、それは樋口委員のご意見のように、ただ評価を自由にという部分だけであると、どういうふうに書いていいかという部分でわかりにくいかなと思うので、具体的にこれはどう思うかとか、充実しているかとか、そこぐらいまでの言葉に落として、問いがあったほうがいいとは思っただけだが、ただ、長くなるのかなと、そこが私もちょっと、どこまで長くというのは、ちょっと思うところなのだけれども、具体的な問いを出すというのがいいのかなとは思っただけ。

(清水委員)

先ほど部長のお話を聞きながら私の発言を見直していたのだが、先ほどサービスを提供する側、受けとる側ということを行ったけれども、もう一つ、視点として、やはりこの施策というのは行政が中心になって、とりあえずいろいろまとめる、だから、その行政との距離感というのがあると思う。

公民館とか図書館とかというのは、どちらかというと、行政の立場に立っているいろいろな運営すること、プラスそれに対する審議会のメンバーたちと、行政に近い立場から自分たちがする。で、PTAの方々はもちろん自分たちでいろいろな活動をするのだが、行政と遠いと、自分たちがやりたいことが、うまく行政のサポートが足りない、こういうことをサポートしてほしいのだというような意見というものは十分あり得るわけで、だから、そういうサービスの受け手、出し手というだけではなく、行政に対する期待というか、それを施策の中に反映してほしいのだという立場があると思うので、それをはっきりアンケートの中でうたうというのも1つの手だと思う。自分たちの活動の中で行政に期待するところ、あるいは行政からちょっとサポートが少ないという評価の中に、次のをもうはっきりうたうと、答える側はわりと逆に答えやすくなるかもしれない。ただし、非常に多彩な意見が出てきてもというのが大変なのかもしれない。

(西田生涯学習部長)

はい、その点でちょっと。

(中村議長)

はい、お願いします。

(西田生涯学習部長)

すいません、出過ぎてて申しわけないが、本来、私があまり発言してはいけないだろうとは思いますが、基本的なことを申し上げると、恐らく、聞こうと思えば、全市民にこれは聞ける。だから、まずどこまで聞くのか決めなければいけないし、あともう一つ、今、清水委員がおっしゃられたように、今年度については、コンサルとかお手伝いとかがつかないので、出てきたアンケートをこの委員会の中で消化しなければいけないわけである。この社会教育委員の会議の中で。そこまでき切れるのかどうかという問題もあるかと思う。

であるから、まず、どこに聞くのかと。図書館と公民館はいいとしても、あとどこに聞くのかという話と、内容をどういうふうなものを聞くのかということを考えていただいて、それから、もう一つ、これは予算がついていないので何とも言えないが、来年度についてはコンサルを入れて、第3次の生涯学習推進計画をつくっていくということになっているので、その中でやってもいいような話もあるのかもしれない。

今、聞かなければいけないのかというようなことも選別をする必要はあるかもしれないし、例えばごく簡単なアンケートだけとっておいて、必要に応じて、来年度コンサルも交えてヒアリングをすとか、そういう方法もあるかもしれない。

なので、ここでは、とりあえず第2次の評価をして、第3次につなげていくというのが基本的なアンケートをとるといふところのあれになっていると思うので、そうすると、それに合致するような形でのアンケートのとり方というのが一番ふさわしいのかとは思ふ。

であるから、対象範囲なんかもある程度、抽出的な感じで聞く団体なんかも幾つか抽出をすとかというやり方もあるのかもしれないと思う。もうちょっと網羅的なのは、来年も聞いてみるということもできるかもしれない。

第3次を考えるに当たってのどっかかりが今、正直言って、情報がないので、集めなければいけないということだろうと思うが、その情報を集める範囲をうまく決めていただければなという感覚は持っている。

例えばであるが、子供関係としてはP連というのはすごい大きな会である。であるから、あとは代表的な、例えばここはもう完全にあれになるのかもしれないが、ちょっとバイアスがかかってしまうかもしれないが、例えば先ほどこの3ページに出ていた、第6節、生涯学習をめぐる今後の課題と書いてあるところも6カ所ある。それぞれの例えば代表的なといったら怒られるのかもしれないが、その中でそういうような活動をしてそうなところを1カ所ぐらいつつ選んで、話を聞いてみるということもある。話というか、アンケートをとってみるということもあるのかもしれないなどは、個人的にはちょっと思ったことがある。

(中村議長)

今、西田部長がおっしゃった件は、まだ公運審、図書館協議会以外のところどこにとるかということか。

(西田生涯学習部長)

そういうことである。

(中村議長)

今までの中では、一応各社会教育委員の出身母体であるところ、公募委員以外のところということに決まったように思うが、別にそれにこだわらないということか。

(西田生涯学習部長)

ええ。もうそういう決まりであれば、それで、すまない、ちょっと私、失念していたところがあるが、出身母体に聞くということで、今回は限定するということでもいいかと思う。

多分、最終的には、もうちょっと広いところにコンサルが入ったときには、何か話を聞く機会というのはあるのかもしれない。

(中村議長)

どうするか。その辺、はっきり。

(西田生涯学習部長)

では、出身母体という。

(中村議長)

それとも、もっと絞るか。ただ、絞ったほうがアンケートの論議はそんなにしなくて済む。

(西田生涯学習部長)

出身団体という意味で言えば、今、出身母体があるところはそんなにない。

(中村議長)

あと、私が考えたところでは、学校関係とP連と体協と文化連盟、ソロプチミスト、P～ステップ、それだけである。

(西田生涯学習部長)

そうすれば、ある意味偶然なのかもしれないが。

(中村議長)

当てはめて。

(西田生涯学習部長)

この6カ所、わりと重なっている。だから、それはそれでいいのではないかと思う。確かに聞き方をどうするかという問題だけがちゃんとある。

(石田委員)

石田である。聞き方については、今、樋口委員が言った、自分の母体の関連するところ、地域社会とか、うちは環境とかも関連してくるが、そのところをやっぱりこの項目から抜き出していいと思うか、3択か5択ぐらいでやっていくのが一番楽。楽というか、答えがまとまりやすい。だから、それが自分の母体によってすごく長くなる可能性もあるが、長くなっても、それはそれで私自身がつくるときにつくりやすいのではないかと思う。だったら、この項目について、これについてどう思うかというのは、参考資料としてこれがあればいいわけか。

(西田生涯学習部長)

そうである。

(石田委員)

はい。

(中村議長)

樋口委員のほうで何かつくられたものはあるか。文章にしたものはあるか。

(樋口委員)

いえ、あの……。

(中村議長)

特に。

(樋口委員)

特に打ってきたわけではなく、この文章を利用するところと、あと、そこと線と、その後、十分に行って、文章がつながるように、これを打ったら一応質問になるようにまでは、これにコピーしたものに書き込んできたという程度だが、ただ、ここで中村議長が、人材リーダーの育成とか、各種団体との連携とか、あそこら辺も挙げてくださっているの、そこに関してはちょっと考えていなかったのと、先ほどちょっと目を通した中では、直接P連関係の人が答えられるかどうかという内容は、少し細かい部分の話を、読んでみると、あるかなという感じはした。

(中村議長)

ありがとう。

石原課長はどうか。スケジュール的にまだ余裕はどうなのか。

(石原生涯学習課長)

回答期間をどのぐらいで見るかだが、前にお出したスケジュールで見ると、団体への意見の依頼と意見の回答というのは、9月中ぐらいに回答をいただくというスケジュール案になっているので、今はもう5月中旬であるので、小委員会でもんでいった中で、7月ぐらいに一定まとまるとすると、ちょっと団体さんのほうには2カ月ぐらいで回答をつくっていただくということになって、それぞれの団体の活動の頻度とか、そういうアンケートを議題にしての会議とか、開催できるのかどうなのかというところによってしまうのだが、今、うちのほうの頭の中で描いているスケジュール感だと、そんな形である。

(中村議長)

はい、わかった。

次回の小委員会が6月10日である。そのときに決められるかどうかというところがあると思う。

今の議論でいろいろなお話が出ていたが、やっぱり答えやすいというところで、樋口委員がおっしゃったような形で細かく聞いていくという感じのほうがいいか。

もしお願いできるのであれば、公募委員の方を除いては、お手数だが、ご自身が所属される団体について質問内容を考えていただくというのはだめか。

(樋口委員)

はい。それは……。

(中村議長)

それで考えていただいたのを次回の小委員会でもませていただいて、決定するような感じでどうか。

(石田委員)

評価団体を5にするか、3にするかとか、それに対してよくできているとか、もう少しとか、その段階だけきちっと決めていただけたらば。

(中村議長)

そこは後でもできると思う。何を聞くかというところ。それをどこまで、何段階にするとかいうのは小委員会で決めさせていただき、何を聞くかというところである。

たたき台であるが、私はこの大項目でこういうふうな形でやってみたということで、ご自身がそういうことをされたということで、日ごろの活動でかかわってくるところの項目を挙げていただき、そこについて具体的な質問をしていくということでどうか。

(石田委員)

はい。

(中村議長)

そして、その案を出していただいたのを事務局のほうへメールで送っていただくような感じでどうか。原嶋副議長、よろしいか。つくったものをメールでお送りする。

(原嶋副議長)

はい。

(中村議長)

いいか。それでは、各……。

(樹委員)

いつまでか。ちょっと立て込んでいるので。

(石原生涯学習課長)

そのまま出すのであれば、6月10日の小委員会に間に合うような形で、当日…

(中村議長)

では、6月9日でいいか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

あまり日がなくてあれだが、6月9日までに。樹委員、大丈夫か。

(樹委員)

わからない。たしか5月末、1週間研修に行ってしまうので、ちょっと何とも言えない状況である。

(原嶋副議長)

P連なんかは結構項目はいろんなときにわたっているが、僕のスポーツ関係だと、1、2、2.5ページぐらいなのでだけど、どうしようかなというのはあるが。

(本多委員)

私の関係の方は、項目は1つしかない。だが、人生の長い方が多いので。

(原嶋副議長)

うちもそうだ。

(本多委員)

小金井市のいろんな団体に参加しているという人は多様にいる。その内容が含まれた感じに問うことができる。今まで参加した中では、公民館が一番多いと思うが、そのとき感じたことなどを箇条書きにして問うかもしれない。

(中村議長)

そうだ。ご自身なりに考えていただいて。

(本多委員)

はい。

(中村議長)

では、ちょっとお手数だが、6月9日までに各団体に所属されている方については、事務局宛てにヒアリングの項目を書いていただいて、お送りいただく。それで、小委員会でそれをもんで、決定するという形にしたいと思うが、よろしいか。

(「はい」の声あり)

## (2) 平成26年度視察研修について

(石原生涯学習課長)

原嶋副議長のほうから、日程を押さえた旨のご連絡をいただいた。あと、小山田委員のほうで小平の状況は。

(小山田委員)

直接は小平の六小というところで、現場の方たちはどうぞという感じだったが、なので、正式に依頼していただいて、それから最終的にはなるかなということであったので、ちょっとご連絡先等、担当の方の名前とかも伺ってきたので、後でお伝えするので、そちらに直接ご連絡いただいてということで、一応、25日の午後あたりでということは、一応打診はしておく。あとご連絡いただけたらと思う。

(中村議長)

それは前回の会議でもあったが、一応、原嶋副議長がおっしゃったように、やっぱり通すところは通さないというのがあったので、あれは学務課になるのか。

(石原生涯学習課長)

指導室。

(中村議長)

すまない、指導室。指導室のほうを通すという形で。

(石原生涯学習課長)

はい。

(原嶋副議長)

早速、ありがとう。杉並に似ているが、向陽、太陽に向かう中学校、いい名前である。たまたま7月25日はピンポイントなので、調整が難しかったが、午後は小中学校の先生方の研修会がある。あれで申しわけないがというので、ほんとうは遠いところは後がいいのかもしれないが、ここから1時間ぐらいで行けるかと思う。小山田さんがやっていた小学校と中学校と、視点としてはおもしろいのかと思う。校長さんには、あなたの経営自慢ではないよと。地域とどうかかわっているか、そこをということで、わかったということで、その地域のトップの方もそのときには、10時ごろだが、はせ参じてくださる。やっぱり、その人たちの意見のほう、むしろ一番大事なのかと思った。

そんなふうなことで、あとは教育委員会に調整していただく、指導室だね。また連絡し合って遠慮なく言ってくださればと思う。

(石原生涯学習課長)

では、7月25日は1日マイクロバスを押さえているので、正式なオーケーが出てからになるが、午前中に杉並区のほうに行って、午後に小平市の学校という、そのようなので考えているので、よろしく願いしたい。

(中村議長)

原嶋副議長と小山田さん、早速動いていただき、ありがとう。助かった。7月25日の午前中が杉並の向陽小学校、あと小平。あ、向陽中学、中学、失礼した。で、午後は小平の。

(小山田委員)

第六小学校。

(中村議長)

第六小学校。

(小山田委員)

小川町あたりにある。

(中村議長)

7月25日、ご欠席の方はいらっしゃるか。大丈夫か。皆さん出席ということで、よろしいか。

では、すまない、事務局のほうでまた、指導室経由で連絡のほう、よろしく願いする。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

あと、詳細な時間、集合時間とかは、事務局のほうでつくっていただいて、配信していただければということによろしいか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

あと、7月までもう本会議がないので、メール連絡になると思うが、よろしくお願ひしたい。

では、視察研修については以上ということで、お願ひ申し上げる。続いて、項目3の社会教育関係団体への補助金交付についてということで、事務局のほうからお願ひする。

(3) 社会教育関係団体への補助金交付について

(石原生涯学習課長)

社会教育関係団体に対して補助金を交付しようとする場合については、社会教育法に基づき、社会教育委員の会議で意見を聞いてから行うということになっているので、今回お諮りするものである。

まず、平成26年度の社会教育関係団体補助金については、小金井写友会、こがねいロケよび隊の2件である。詳細については、こちらの資料の一覧のとおりである。

社会教育関係団体補助金交付要綱に基づいて交付しているものであり、目的としては、社会教育団体が行う事業の経費の一部を補助するものになっている。

対象となる団体については、小金井市社会教育関係団体登録要綱の規定に基づいて登録されておる団体で、登録してから1年以上の実績を持ち、かつ構成員の2分の1以上が市内に在住、在勤または在学している団体という形になっておる。そのような条件に基づいて審査した結果については、適正なものであると認識している。

資料の下段のほうの小金井市立小中学校PTA連合会、小金井市スカウト協議会は例年交付しているものであり、内訳等の詳細については、資料をご確認いただきたいと思う。

以上である。

(中村議長)

はい、質問はいかがか。団体名、小金井写友会、写真展ということで、交付回数これまではなかったものが、今回34万のわりと高額の前算がついているという、あ、交付予定額は3万、失礼した。交付予定額3万がついているが、恐らくこの小金井写友会というのは、写真展を毎年やるのではないかとということで、今後これはずっと支出されることになるかもしれないということで、ここの写友会がなぜ今回、初めて申請が。

(石原生涯学習課長)

補助金の交付回数であるが、1団体5回までが上限となっているので、過去は何回あった？

(牛込生涯学習係長)

まだ。

(石原生涯学習課長)

今回初めての申請であるので、5年間続けて交付を受けるか、隔年とするかなどは、団体のほうに委ねている。

(中村議長)

当然、ここの写友会については、社会教育団体として登録されているという背景があると思うが、ここが今回新たに選ばれた理由というのは何かあるか。

(石原生涯学習課長)

これは団体からの申請に基づくものである。

(中村議長)

なるほど。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

今回、どのぐらいの団体から申請があって、この2件を認可されたのか。

(石原生涯学習課長)

今回申請されたもので2件、この写友会と、こがねいロケよび隊の2件からのみ、社会教育登録団体としては申請があったものである。

(中村議長)

わかった。ありがとう。

ほかに皆さんのほうから、この件でご質問はないか。ないか。なければ、これで承認ということで、よろしいか。

(「異議なし」の声あり)

#### (4) 地域文庫補助金交付について

(中村議長)

続いて、協議事項の4番、地域文庫補助金交付について、事務局のほうからお願いします。

(上石図書館長)

図書館長である。それでは、協議事項4、地域文庫補助金交付についてご説明する。こちらは社会教育法第13条で、社会教育団体への補助金交付に当たっては、社会教育委員の会議で意見を聞いて行わなければならないとされており、これで協議をお願いするものである。

図書館では小金井市地域文庫補助金交付要綱に基づき、読書普及活動の活発化を図るため、図書及び読書に関する研究、調査、相談、講習、その他の活動を行い、地域社会に奉仕する地域文庫に対して補助金を交付しておる。

なお、補助金交付対象となっている小金井市子ども文庫サークル連絡会は、地域で活動してい

る文庫サークル7団体で構成されている。今年度については、子どもと本を結ぶという事業に関して交付するもので、金額は3万円になっておる。

資料としては、小金井市地域文庫補助金交付要綱をおつけしてあるので、ごらんいただきたい。説明は以上になる。

(中村議長)

ありがとう。質問であるが、前年度の補助金が交付されているのは、どこにどれだけ交付されたかというのはわかるか。

(上石図書館長)

はい。やはりこちら、小金井市子ども文庫サークル連絡会に3万円である。

(中村議長)

ありがとう。

皆さんのほうからご意見、ご質問はないか。よろしいか。

では、ご意見なければ、項目の5ということで、その他、協議事項は特にないか。あるね。第5ブロックの研修会。

(5) その他

ア 第5ブロック研修会について

(石原生涯学習課長)

第5ブロックの研修会についてであるが、前回もお話に出て、研修会のテーマとしては貫井北町センターということで、他の意見はなかったのかと思うが、日程をどうするかということで、事務局としては、社会教育委員の会議の研修会など、ほかのブロックでも土曜日の開催が多いのだが、土曜日については、貫井北町センターは、NPOの職員がいないということもあり、また、利用者なども土曜日は多いというところで、秋口の開催でほかの選択肢はないのかどうなのかというところを皆さんにご相談したいと考えている。

(中村議長)

今のお話だが、これまで第5ブロックの研修会は、秋、11月ごろの第1週の土曜日がわりと多かったと思う。曜日としては、ずっと土曜日が多かった。その理由は、ちょっとつまびらかではないが、やはりたくさんの方が集まりやすいということがあり、その曜日になっていたと思う。

今回は、私どもが主体になって実施するので、まずは他市のこともあるが、我々の参加率が100%を目指さないといけないので、そのあたりで皆さんのご都合をお尋ねしたいわけである。

今、貫井北町センターの職員の体制上、土曜日はちょっときついというお話であったが、ただ、とはいえ、我々、社会教育委員が高い出席率で出ないとちょっともたないというところがあるので、土曜日に固執するのか、あるいはまたほかの曜日でもいいのかについて、ご意見をいただければと思う。いかがか。

(原嶋副議長)

できたら、やはり土曜日とかのほうがいいのかと。ただ、図書館のほうとか、そういった意味

では、指定管理の方がお願いできないのかなと。

(中村議長)

では、この件は預からせていただく。私が直接昼間理事長に聞いてみる。ということで、一応、できる限り、私も原嶋副議長と同じ考えで、土曜日のほうが皆さんにとっていいんじゃないか。なおかつ、ご来場いただく他市の方々にとっても土曜日のほうが集まりやすいというのがあると思うので、できればその方向で調整はしてみるのも、ちょっと預からせていただく。

(原嶋副議長)

内容だが、NPOの方が特徴あるセンターをつくったと、その説明もよいのだが、この前も同じことを言ったのだが、出席される方々、社会教育委員の方々ができるだけご発言できるようなものを設定したほうがいい。聞くだけじゃなくて。

前回、僕、調布のほうに出たが、いじめについて、これは難しいなというのはあったが、皆さん結構発言をされていたので、一方的に説明とか何かじゃなくて、何か話をできるようなものを持って行って、自分たちが主催するのに勝手なことを言っているが、そのようなものをぜひ、頭の中で皆さんで考えていったらどうだろうか。

(小山田委員)

質問だが、この大会を開くに当たって、予算というか、そういうものはあるのか。

(中村議長)

それは予算化されている。うちのほうから、さっきちょっと事務局のほうから、私が書類を書いて、そうしたらお金が、いわゆる第5ブロックというか、上部団体のほうからお金が出るようになっているから、その辺はご心配なく。ブロックの活動に関する、例えば施設の利用率とか、茶菓子になるのか、謝礼とかも含めて出るようになっている。私のお答えでよろしいか。

(小山田委員)

例えば、公民館の方もその日はお休みだとしても、何か謝金的なことでも来て、仕事じゃなくて、別に来てもらって、お話をさせていただいたりみたいなことも可能なのかと思って伺ってみたいもしたのだが。

(中村議長)

可能であれば昼間さんをお願いして、それで謝礼というのか、ちょっとそれは事務局のほうと相談する。

(小山田委員)

館長とか副館長も言えば来てくださるんじゃないかとは、それこそ市民、NPOの方たちだし、協力はしてくださるんじゃないかとは思っているのだが。

(中村議長)

ただ、昼間さんの場合は割と無給でやっていただけなのが、分館長、図書館と公民館は実はNPOの職員だから、土曜日は時間外なのでお金がかかると、そういうことである。

(石田委員)

ただ、公民館が土曜日でお休みということは、公民館部分を全部使えるということか。

(西田生涯学習部長)

そうではない。貸し出しはしているから、先に押さえておけば大丈夫だと思うが。

(石田委員)

正規の職員はお休みで、多分その日は……。

(中村議長)

場所だけあいていて、職員は勤務してない、そういう状況である。

(石田委員)

公民館が全部あいているというわけじゃない。

(中村議長)

ただ、職員の事務スペースはだめだという。我々利用者は大丈夫。

(前島公民館長)

第5ブロックの方のお部屋は押さえておく必要があるということによろしいか。

(中村議長)

そうである。お願いしたい。

(前島公民館長)

その他の部分については、貸し出しがあればそれは使っていただいてもいいということによろしいか。

(中村議長)

そうである。だから、私の念頭にあるのは北町ホールを11月の土曜に押さえていただきたいと。

(前島公民館長)

そこも一番人気なので。

(中村議長)

今からだと大丈夫では。

(前島公民館長)

行政使用という形であれば事前にとれるので、日程だけ確定していただければ、そこで取らせていただきたいなと思っている。

(原嶋副議長)

11月何日にやる。すると、当然スケジュールはどんどんおりてくる。私どもが最終的につくったものが第5ブロックの各市に行くんだと思うが、それはいつごろまでにつくらないといけないのか。プログラムはやっぱりきっちりつくっていかなくちゃいけないと思う。何にしようとか、どういう話、どういうテーマで、第2部はどういうものを。それは全部事務局にお任せするわけにはいかないと思う。皆さんでやっぱり仕込んでいかなくちゃいけない。だから、ここまでで最終的に発信しなきゃ迷惑がかかるわけだから、急に出してもね、1週間、2週間なり。だから、

その辺のところを、プログラムはやっぱり考えてつくらなくちゃいけないのかなと思う。

(中村議長)

今おっしゃったように、お尻のところはもう決まっているわけだから、それにあわせて、どの段階までにこれを決めていくというのは必要。日程的には、今見てみると、11月の1日か8日、そのあたりになるんじゃないかなと思うが、皆さん、ご都合はいかがか。これはあくまでも予定である。

(西田生涯学習部長)

逆に決めていただけるなら決めていただいたほうが。公民館は人気なので、後でやっぱり1日にするとか言われても難しくなってしまうと思うので、もう早いうちに確定。

(樹委員)

10月25日というのはどうか。10月にやったときもある。

(中村議長)

そういう手もあるのか。

(樹委員)

結局、文化の日を挟んで、文化的なイベントが多いと、ほかの市の方で関連する方は来られない可能性が高いと思うが。

(中村議長)

10月24日が会議だから、ちょうどいいといえばいいかもしれない。準備できるので。

(石田委員)

打ち合わせをしながら。

(中村議長)

じゃ、10月25日、だめな方いらっしゃるか。よろしいか。

10月25日で、時間が、ちょっと長く押さえて午後1時から5時か6時ごろまで。あそこ、終わり何時までか。

(前島公民館長)

あそこは10時まで開館している。夜はいいが、飲食ができないという、それだけの話である。

(中村議長)

じゃ、一応、押さえる時間は13時から……。

(前島公民館長)

念のため12時から押さえる。

(中村議長)

じゃ、12時から18時。もちろんそれより短くなると思うが、12時から18時、ちょっと押さえていただけるか。

(前島公民館長)

はい。北町ホール。

(中村議長)

北町ホール、あそこが一番大きいのか。

(前島公民館長)

ちょっと今、確認させていただいてよろしいか。

(中村議長)

助かる。お願いします。

(前島公民館長)

今、押さえた。

(中村議長)

ありがとう。じゃ、25日の13時から18時まで。

じゃ、とりあえず10月25日の午後、第5ブロック研修会ということでお願いします。場所が北町センターの後、商工会館のほうへ移動して懇親会。

(清水委員)

商工会の2階が2つ会議室、大と小がある。多いときは間を取っ払っちゃうが、そうするとちょっと料金も違っちゃう可能性がある。大会議室だけだと四、五十人。立食形式でいいのか。

(中村議長)

立食である。

(本多委員)

調布市のときは、50人ぐらいだった。

イ 科学の祭典について

(中村議長)

実は協議事項がもう一つある。科学の祭典の準備であるが、科学の祭典が、今年はちょっと早くなって8月31日の日曜日になり、祭典の事務局のほうに5月31日までにどういう内容でやるかというのを報告しないといけない。それがあって、出展内容調査書というのがあって、それに、例えば出展タイトルとか、人数とか、使用する机、椅子の数とか、中高生ボランティアの仕事の内容とか、あるいは実験内容、報告書に載せるブース紹介文、安全上の留意点等々、いろいろ調査書に書いて5月末までに提出しないといけない。何をやるかということがまだ全く決まっていなくてどうしていくかということで、今日の午後の三者懇でもこのあたりを詰めることになるが、どうしていくかについて、私としては例年と同様に、例えばの話で、第二次生涯学習推進計画のパネル展示とか、あと去年、前社会教育委員の伊藤さんを中心に実験をやったので、そういう形で社会教育委員としては出展しようかなと、これは私の思案で、考えているが、皆さん、ご意見があればお聞きしたいと思う。

(石田委員)

伊藤さんが、もしかすると僕一人でやろうかななんて、去年ちらっと言ってたので。

(中村議長)

とは言いつつも、こっちも掛け持ちでやるという。そういう意味では安心はできるんじゃないかと思うが、このごろ連絡を取ってないのでちょっと。

(本多委員)

ここのグループも伺って、こういう作品をやりたいって人がいたり、得意な作品があったら。

(中村議長)

清水さん？

(本多委員)

得意な何かがあるとか。

(中村議長)

おありかもしれない。隠れて。

(本多委員)

でなかったら、OBの伊藤さんをお願いしては。ここにちょうどそのときの作品がある。

(石田委員)

テトラパックか、やっぺらっしやる。その再利用とか何か、そういうなんかないか。

(樹委員)

再利用してしまうと、テトラが……。

(石田委員)

テトラでなく。

(樹委員)

ベルマークじゃなくなってしまうので、そういうものはベルマークでちょっと換金しないといけない。ただ、前回、羽村に伺ったときにほかの市の社会教育委員の方たちが社会教育委員って何をやっているのかというのを発信する場がないとおっしゃっていて、市民に社会教育委員の活動を理解してもらえないという話があった。そういう部分ではパネル展示と、三者が一緒になって科学の祭典に取り組んできたということはすごい画期的なことだと思うので、大変な労力と、当日ののりべたべたと、いろいろなことはあるが、また、今回は8月31日ということで、どれだけ暑いかと思うと、ちょっとぞっとするような気持ちはあるが、私も社会教育委員になるまで社会教育委員という存在すら知らなかったの、やはり8月31日、ちょうど子供たちが夏休みの最終日に明日何を、工作を持っていこうとか、宿題どうしようと思っている子たちに、少しでも助けになるようなことができたらいんじゃないかなと思っているので、今年も頑張ってお出展ができればと思う。

(中村議長)

何かこれをやってみようかという、今急にお聞きしてもすぐ出ないだろうが、何かアイデアはないか。特に皆さんからご意見がないようであれば、これまでと同じようなパターンで、先ほど申したようなパネル展示と科学の実験ということ、伊藤さんにちょっとお手伝いいただきながら

やっぴいこうかなと考るが、その方向性でよろしいか。また私のほうから伊藤さんにご連絡して詳細を詰めるような形だと思うが、ご一任いただいてもよろしいか。

(「はい」の声あり)

(中村議長)

では、早急に私のほうから伊藤さんに連絡を取るので、また詳細が決まったら皆さんにご報告させていただく。今日の午後の会議でも科学の祭典について話し合われることになっているので、よろしくお願ひする。

では、報告事項の1で、文化財センター企画展についてということで、事務局お願ひする。

## 2 報告事項

### (1) 文化財センター企画展について

(石原生涯学習課長)

3月29日から5月6日まで文化財センターで行われた企画展の来館者数の報告である。内容は例年春にやっぴいする桜をテーマにしたもので、今年には絵はがきに絞って小金井の桜をはじめ、江戸名所の桜を紹介した。

雑駁であるが、報告は以上である。

(中村議長)

ありがとう。皆さんご意見あるか。よろしいか。

では、続いて2の第19回ウォーキングフェスタ東京ツーデーマーチについて事務局のほうからお願ひする。

### (2) 第19回ウォーキングフェスタ東京ツーデーマーチについて

(石原生涯学習課長)

5月3日、4日に都立小金井公園を出発地点として開催された、以前は東京スリーデーマーチと呼ばれていたものが、新たに期間退縮されたものである。昨年は1万人を超える来場があったが、両日とも2コース用意していたが、今年から1日1コースを基本とする形式に変更したので、コース減による人数減が主な要因かなと思っぴいする。両日とも好天に恵まれ、小金井市立の中学生のボランティアも大勢ボランティアで参加していただいっぴい、来場者から非常に快く思われっぴいという光景が見られた。

以上である。

(中村議長)

ありがとう。よろしいか。

続いて、報告事項3、小金井チャレンジデー2014について。

### (3) 小金井チャレンジデー2014について

(石原生涯学習課長)

こちらは来る5月28日の水曜日、全国的に5月の最終水曜日がチャレンジデーというスポーツに取り組むイベントの日ということで行われているもので、小金井市は初めてこのチャレンジデーという催しに参加する。こちらのほう、15分以上継続して小金井市内で、市民でなくても市内で活動すれば参加として認められるが、小金井市内で15分以上継続してスポーツや軽い運動でも構わないので取り組んだ人の参加率を集計して、対戦の相手市が福岡県の大牟田市というふうに抽選で決められていて、そちらと参加率の多寡を競うというのも1つイベントの特色として企画されているものである。

社会教育委員の皆様も、もし、団体での活動以外でも、ご家族などで活動したものがあつたら裏面の連絡用紙に人数を記入していただいて、0800から始まる番号に電話かファクシミリでご連絡をいただくと通話料がかからないので、ぜひ小金井市民の運動のきっかけとしていただきたいと思う。よろしく願います。

(西田生涯学習部長)

散歩でも、買い物で歩いたとかいうのでも構わないので、ファクスでもEメールでも、何でも構わないので、電話もあるので、ぜひご協力を、ぜひ社会教育委員の皆様には率先してご協力をいただければと思う。よろしく願います。

(本多委員)

個人名は聞かないでと。

(西田生涯学習部長)

ええ。個人名は聞かないので、誰がやったということではないので。大牟田市は参加率すごい。去年69.2%。8万5,000人か何かが活動したという。そういう集計結果になっているので、市長としては負けたくない。ご協力をよろしく願います。

(清水委員)

これは宣伝が行き届いている。

(西田生涯学習部長)

宣伝を今一生懸命やっている。学校関係の。正直、市報にも載せたりしているし、今、ホームページはトップページに載っている。市報もトップページ。

(石原生涯学習課長)

新聞の三大紙の折り込みもこれから行うので、ただ、チャレンジデーという言葉は初めて聞く方が多分ほとんどだと思うので、来年以降もやっていくので、それも踏まえて周知していく。

(中村議長)

ありがとう。

それでは、報告事項4、その他、特にあるか。樹委員、願います。

(4) その他

ア 放課後子どもプラン運営委員会について

(樹委員)

本年度第1回の放課後子どもプラン運営委員会が5月9日に開催された。今回は委員の委嘱状の交付、またコーディネーター等の紹介が主な内容だったが、昨年度末に決めたそれぞれの学校のスケジュールをもって放課後子どもプランの運営をこれから行っていくということでスタートした。以上である。

(中村議長)

ありがとう。ご質問とかあるか。大丈夫か。

ほかに報告事項はあるか。事務局のほうからは何か。

(石原生涯学習課長)

特にない。

(中村議長)

それでは、あと、今日のスケジュールだが、午後から三者懇談会があつて、午後2時から貫井北センター学習室A Bで行われる。内容については皆さんにもお配りしているが、施設見学と開館1カ月を経過して現在の状況、それから科学の祭典について、生涯学習推進計画について話し合いがなされる。一応1時から場所は使えるということである。

以上